

2023 年度 事業計画書 予算書



GMIM カローランアムラン病院（インドネシア）のスタッフ。
右端は元 JOCS 奨学生

目次

1. 新年度の抱負	1
2. 中期計画における位置づけ	2
3. 海外諸活動	2
[3-1] 海外派遣	2
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）	2
(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）	4
(3) 短期	5
[3-2] 奨学金事業	5
[3-3] 協働プロジェクト	12
(1) SALT（次世代のための健康と衛生）プロジェクト	12
(2) 第2期シロアムプロジェクト	12
(3) ママ・ナ・ムトトプロジェクト	13
[3-4] 災害救援復興支援	14
4. 国内諸活動	14
[4-1] 国際保健人材育成	14
[4-2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動	15
[4-3] マーケティング	16
5. 運営体制	18
[5-1] 定時社員総会	18
[5-2] 理事会	18
[5-3] 委員会	19
[5-4] 事務局	20

1. 新年度の抱負

会長 畑野研太郎

新型コロナウイルス感染症の波は続いているが、社会はコロナと共に回していこうという方向に舵を切った。しかし内外の流行状況を見ても、安心できる環境に戻ったわけでもなさそうだ。ウクライナでの戦争も続いている。ミャンマーや中国の人権抑圧がなくなったわけでもない。「先が見えない」のはいつでも変わらないのだが、それにしてもどのような未来が待っているのか、5年前に今の世界を予想できなかったし、5年後の世界を思い描くことも困難だ。

大きく変化する世界環境の中で、JOCSはどのように変革していけばいいのだろう。現5カ年計画の終了の年を迎えて、理事会では新たな5カ年計画の策定に向かって議論してきた。しかし、変革の具体的な姿が描けない。逆に「変革」を考えるにあたっては、これだけ変えてはいけないということの「継承」について確認しておかなくてはならない。

JOCSにおいて継承すべきことは何か。JOCSは「医療を通じて、愛を世界に。」をキャッチフレーズとした。この言葉は、私たちの手段が広い意味での医療であること、世界の途上国の困難の中にいる人を対象としていること、何よりも愛に基づく活動であることを表している。その愛は、ギリシャ語でいうところの「アガペー」である。また、JOCSの創立が戦争に対する反省からである点も重要である。あくまでも「平和」を築くことが私たちの活動の動機でなければならない。こういったことを考え続けながら歩む年としよう。

岩本直美ワーカーは、新しく「JOYJOYプロジェクト」をPIME（ミラノ外国宣教会）のもとで立ち上げ、奮闘中である。雨宮春子ワーカーは任期を終えられるが、「ママ・ナムトプロジェクト」の継続のために、タンザニアと行き来されることになっている。奨学金事業では、現地の必要から草の根の資格ばかりではなく、より高度な資格を取ることを求められており、JOCSはそれに答えることを決定した。協働プロジェクトもこれまでのように継続する。コロナ禍に対する支援も、災害救援復興支援として継続していく。

小さくされた人々の中におられるイエス様との出会いを求めて、「みんなで生きる」世界を求めて歩み続けます。

2. 中期計画における位置づけ

2023年度は新たな中期計画「5カ年計画2023」の最初の年となる。「御心により造り変えられ、呼び声に応える器となる」というビジョンに従い活動を進める。特に1年目となる2023年度は、組織と活動における、変革に必要なものを検討し、変革の方向性を検討する。

国内諸活動においては、ウィズコロナの認識のもと、JOCSの使命に強く共感していただけの支援者を増やすための施策をとる。対面でおこなうことのできる活動は対面で実施する。オンラインミーティングをはじめ、従来からある会報誌やホームページ、電子メールなどさまざまなコミュニケーションツールについては、より効果的に活用できるように研究を重ねていく。

海外諸活動においては、日本国内とは異なる、海外での新型コロナウイルス感染対応に適応しながら活動を進める。コロナ禍においても積極的に活動を展開した奨学金事業については、急速にコロナ禍前の状態に戻すことはせず、拡充した支援を継続する。協働プロジェクトにおいては、ワーカー派遣事業との連携を進める。ワーカーの発掘を進めると同時に、各国の支援要請についても積極的に事前調査を進めていく。

3. 海外諸活動

海外派遣事業ではバングラデシュの岩本直美ワーカー派遣を継続する。タンザニアの雨宮春子ワーカーは4月に帰国となる。協働プロジェクトでは短期ワーカーの派遣を積極的に検討する。また、新規の発掘を進める。奨学金事業や協働プロジェクトでは現地に赴いてのモニタリングを全面的に再開し、各国ごとの最新の状況を把握して事業を効果的に展開する。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュでは、引き続き岩本直美ワーカーを、PIME（ミラノ外国宣教会）が実施するJOYJOYプロジェクトへの協力のために派遣する。タンザニアは、雨宮春子ワーカーが聖ヨハネ・パウロ2世病院での母子保健活動を4月まで実施し、日本に帰国する。協働プロジェクトの実施のために短期ワーカーを派遣する予定である。

(1)バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：PIME（Pontificio Istituto Missioni Estere：ミラノ外国宣教会）

派遣期間：2022年7月～2025年6月

活動概要：PIME が実施する「JOYJOY プロジェクト」（現地の知的な障がいのある子どもとその家族を支援するプロジェクト）への協力

1) JOYJOY プロジェクトの中間評価

JOYJOY プロジェクトの中間評価を実施し、2025 年以降における事業の方向性について検討する。

2) スタッフの養成

JOYJOY プロジェクト運営に必要な分野（障がい分野、管理分野）のトレーニングをスタッフに提供する。トレーニングには各分野の専門家の指導・助言を仰ぎ、適当な研修の機会を設ける。各スタッフの賜物と個性に沿った役割分担を図り、職責を漸増させ同伴しながら養成する。

3) 事業内容の充実化

① デイケア

子どもたちのニーズに応じたデイケアプログラムの構成・質の向上を図り、読み書き・言語・機能訓練などについては個別支援を充実させる。園芸など屋外の活動を広げる。車椅子や補助具などは速やかに適切なものが提供できるよう、安定した購入ルートが発掘に努め、スタッフの修理技術の向上も図る。安心して紹介できる教育・医療施設や地元の各専門家の発掘にも努める。デイケアでの補食や子どもたちの送迎についてもさらに改善を図る。

② 家庭訪問

子どもや家族の状況・優先度に応じ確実なフォローアップに努め、適切な補助具の支給を図る。家族間の連絡支援体制づくりに努め、子どもたちや困難を抱える家族を支援できる、地域における適当な人材の発掘に努める。

③ 親たちの集い

集いに参加する母親たちのエンパワメントを図る。世話役たちの職責を広げ、集いの意義の理解を皆に浸透させ、全員参加を図る。父親の集まりもおこない、継続を図る。薬物中毒などで困窮する家族への支援について、皆で学ぶ機会も設けていく。

④ 啓発とファンドレイズ

JOYJOY プロジェクトのプログラムに参加している子どもたち、母親、スタッフによるディナジプール教区内の小教区への訪問の機会を設ける。同時に地域の公共施設や他宗教の施設も訪問する。スイハリ小教区内の子どもたち、神父・シスターたちとも交歓の機会が増えるよう図る。

地元でのファンドレイズを強化する。断食月の喜捨や地域の小売店からの定期的な支援を募る。地元のロータリークラブ・ライオンズクラブなどにも支援を求め、JOYJOY プロジェクトのプログラムに参加している子どもたちやその家族のおかれている状況について、まず知ってもらう。

(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
St. John Paul II Hospital (聖ヨハネ・パウロ2世病院)

派遣期間 : 2019年1月～2023年4月

活動概要 : TAHO傘下の保健医療施設における母子保健プロジェクト「ママ・ナ・ムトトプロジェクト」(協働プロジェクト)の活動。TAHOが実施するセミナーとスーパービジョンの支援をおこなう。

1) ママ・ナ・ムトトプロジェクト

① 聖ヨハネ・パウロ2世病院での活動

- ・母子に対する個別保健指導の実施。

妊婦健診の重要性、産褥健診の重要性、新生児健診の重要性、保健医療施設で出産することの重要性について指導する。健診に関しては、早期に受診開始され、総受診回数が増加するように働きかける。掲示物を作成する。

- ・医療従事者に対する技術と知識の向上・標準化・定着のためのトレーニングおよび、マニュアルや掲示物、教材作成などを通して、適切なケアを提供するための体制作り。内容は、妊婦健診、産褥健診、新生児健診、分娩時の新生児処置、分娩介助、分娩時の入院からの流れ(情報収集と助産診断)、異常時の対応、病棟での産褥ケアと新生児ケア、産後の退院指導、新生児蘇生法、分娩監視装置(妊娠中と分娩中の母体子宮収縮と胎児心拍数を観察する器械)の使用方法和モニター判読方法などを予定。分娩監視装置研修のトレーナー候補を選出し研修を実施予定。

② TAHO傘下の他施設での活動

- ・新生児蘇生法の知識と技術の向上と定着、継続研修の体制を構築。各施設の習得状況に応じて、分娩管理の研修として産後出血管理などの異常時対応に関しても実施予定。
- ・分娩監視装置についての知識技術の向上と定着、継続研修の体制を構築するために、トレーナー候補に研修を実施予定。
- ・全施設に、掲示物や継続研修実施のための教材を作成し、教材活用方法の研修を実施予定。

2) TAHOでの活動

TAHOが四半期に一度、産科の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョン(巡回視察)の準備と実施を支援。

3) 日本での報告会

2023年度までの活動に関する報告会を、5月の1カ月間実施予定。

(3)短期

2023年度はケニアとタンザニアの協働プロジェクトにおける技術指導のために短期ワーカーを派遣する。ほかに具体的な派遣予定はないが、常に要望調査をし、必要に応じて派遣を検討する。

[3 - 2] 奨学金事業

2022年度からの継続としてインドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、タンザニアの5カ国の奨学生を支援する。2023年度募集では、前述の5カ国に加え、ケニアとカンボジアを含めた国別の支援方針に従い、各国の状況を踏まえ、協力団体のニーズを考慮して支援を進める。

(1)インドネシア

田村久弥元ワーカーや塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先の病院である GKST、GMIM、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く職員 14 名を引き続き支援予定である。病院の認証取得に必要とされる人材育成の要請、特に専門医・専門看護師・助産師、およびその他の有資格者の育成に対して積極的に支援をする。

* GKST (Gereja Kristen Sulawesi Tengah : 中部スラウェシキリスト教会)

* GMIM (Gereja Masehi Indjili Minahas : ミナハサ福音教会地域保健サービス部)

* ICAHS (Indonesia Christian Association of Health Service : インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

(2)カンボジア

カトリックプノンペン司教区下にある CCHS を現地の協力団体とし、引き続き、当司教区で建設を予定している病院に必要な人材の育成を調査検討する。

* CCHS(Catholic Community Health Services:カトリックコミュニティ保健サービス)

(3)ネパール

岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、TLMN アナンダバン病院、UMNMDT とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者 17 名を継続して支援する予定である。支援先の病院はいずれも基礎的な人材が揃いつつある。政府の政策にも掲げられている上級資格及び専門医などの人材育成のニーズに応じて、長期雇用が見込まれる病院職員の上級資格・専門資格取得に対して積極的に支援する。

- * HDCS (Human Development and Community Services) ネパールにあるキリスト教系 NGO
- * TLMN (The Leprosy Mission Nepal) ネパールにあるハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO
- * UMNMDT (United Mission to Nepal Medical and Development Trust: ネパール合同ミッション) キリスト教系国際 NGO

(4) バングラデシュ

乾眞理子元ワーカーの派遣先である KHCP で働く 4 名を支援する。奨学生は、仕事を続けながら 3 年間でパラメディックの資格取得を目指す。2023 年度は、1 名の研修が終了予定である。KHCP では創立者の故ベーカー医師から技術を学んだ村人らが無資格のパラメディックとして医療サービスを担ってきた。ベーカー医師亡き後、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のための有資格者が必要となっている。

- * パラメディック：医師ではないが、農村地域において、複雑でなく、頻繁に起こる病気の診断と治療および、妊娠出産時のサポートをおこなう。
- * KHCP (Kailakuri Health Care Project: カイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト)

(5) ウガンダ

ウガンダは 1980 年代後半から 20 年以上内戦が続き、慢性的な医療人材不足の問題を抱えている。2023 年度は UPMB 傘下の 4 名を継続支援する。また、SRD の 5 名も継続支援する。

- * UPMB (Uganda Protestant Medical Bureau) ウガンダ聖公会、セブンスデー・アドベンチスト、ペンテコステ派の 3 教派が連携し、302 の医療施設を統括する全国規模のネットワーク組織
- * SRD (South Rwenzori Diocese: ウガンダ聖公会南ルウェンゾリ司教区)

(6) ケニア

協働プロジェクトの協力団体であるシロアムの園のスタッフの人材育成要請に応じる。

(7) タンザニア

雨宮春子ワーカーの派遣先である TAHO 傘下にある保健医療施設で働く 24 名を継続して支援する。

TAHO 傘下の保健医療施設では保健医療従事者の不足が深刻で、政府が定めている各医療施設の医療従事者数を満たしているところは 1 つもない。基本的な短期研修を受けただけで資格を持たずに働いているスタッフも多く、医師補、看護・助産師、薬剤師など保健医療施設のニーズに沿って基礎的な分野での研修志望が多い。

雨宮ワーカーの主な活動先であり、協働プロジェクト「ママ・ナ・ムトト」の活動拠点となる聖ヨハネ・パウロ2世病院の人材育成を最優先に支援する。JOCSでは、TAHOの計画を尊重しながら支援をおこなう。

* TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)

2023年度支援予定奨学生一覧

インドネシア（14名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
看護師	41	女	ICAHS Estomihi Hospital	看護学	2019年09月～2023年04月
医療助手	25	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2020年07月～2023年12月
病院ボランティア	21	男	GKST Sinar Kasih Hospital	看護麻酔学	2020年08月～2023年08月
病院ボランティア	20	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年08月
病院ボランティア	22	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2024年07月
病院ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年07月～2025年07月
病院ボランティア	21	女	GKST Sinar Kasih Hospital	医学	2020年08月～2025年07月
看護師・公衆衛生 事業責任者	45	男	ICAHS Lende Moripa Christian Hospital	看護学	2020年09月～2024年06月
医師	35	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	医学（小児科専門）	2022年02月～2025年12月
助産師	31	女	GKST Sinar Kasih Hospital	助産学	2023年03月～2025年09月
看護師	35	女	GKST Sinar Kasih Hospital	看護学	2023年02月～2025年02月
医師	34	男	GKST Sinar Kasih Hospital	医学（内科専門）	2023年01月～2027年12月
専門看護師	51	男	ICAHS Mojowarno Hospital	疫学（修士）	2022年09月～2023年09月
専門看護師	39	男	ICAHS Mojowarno Hospital	看護学（修士）	2023年09月～2025年09月

ネパール（17名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
看護師	27	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2018年08月～2023年05月
臨床検査技師	31	男	HDCS District Hospital Lamjung	臨床検査学	2022年09月～2026年08月
看護教師	35	女	United Mission Hospital Tansen	看護学（修士）	2022年05月～2024年05月
看護師	28	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月
看護師長	47	女	United Mission Hospital Tansen	看護学（修士）	2022年09月～2024年09月
看護師	28	女	HDCS District Hospital Lamjung	看護学（修士）	2022年05月～2024年05月
看護師	26	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2021年12月～2024年12月

2023年度支援予定奨学生一覧

看護部長	34	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学（修士）	2022年04月～2024年04月
臨床検査技師助手	40	男	United Mission Hospital Tansen	臨床検査学	2022年01月～2023年12月
補助看護助産師	39	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2022年01月～2023年12月
看護教師	45	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学（修士）	2023年10月～2025年09月*2
補助看護助産師	27	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2023年01月～2025年01月
看護師	25	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	看護学	2023年04月～2026年05月*2
看護師	25	女	UMN Okhaldhunga Community Hospital	助産学	2022年12月～2025年12月
医師	28	男	United Mission Hospital Tansen	医学（麻酔科専門）	2023年05月～2025年04月
医師	26	男	TLMN Anandaban Hospital	医学	2023年03月～2026年03月*2
看護師	25	女	HDCS District Hospital Lamjung	看護学	2022年09月～2026年09月

バングラデシュ（4名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
パラメディック	36	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2021年01月～2023年12月
パラメディック	34	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022年01月～2024年12月
パラメディック	33	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2022年01月～2024年12月
パラメディック	35	女	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2023年01月～2025年12月

ウガンダ（9名）

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
看護助手	37	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年12月～2023年06月
准看護師	28	男	SRD Buhaghura Health Center III	医学	2021年03月～2024年03月
医師	30	男	UPMB Ruharo Mission Hospital	産婦人科学	2020年08月～2023年05月
准看護師	33	女	SRD St. Paul's Health Center IV	医学	2022年01月～2024年12月
超音波検査士	32	女	SRD Rwensade Health Center IV	超音波診断学	2021年08月～2024年07月
看護助手	39	女	UPMB Amai Community Hospital	看護学	2022年02月～2024年07月
医療事務スタッフ	21	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学	2023年01月～2027年04月

2023年度支援予定奨学生一覧

准看護師	27	男	SRD Rwesande Health Center IV	医学・公衆衛生学	2023年03月～2024年06月
准看護師	25	女	UPMB Kumi Hospital	放射線学	2023年03月～2026年03月

タンザニア (24名)

職業	年齢	性別	所属団体	研修内容	研修期間
医師補	45	女	TAHO AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月～2024年07月
医師補	39	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2018年08月～2024年07月
司祭	37	男	TAHO Ndala Hospital	薬学	2020年11月～2023年11月
司祭	32	男	TAHO St.John Paul II Hospital	病院管理学	2020年11月～2023年11月
医療助手	25	女	TAHO Ndala Hospital	看護学	2020年11月～2023年11月
医療助手	23	男	TAHO St.John Paul II Hospital	臨床工学	2020年11月～2023年10月
医療助手	32	女	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医療助手	31	女	TAHO St.John Paul II Hospital	看護助産学	2020年11月～2023年10月
医師補	29	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2020年11月～2025年11月
医療助手	21	男	TAHO Ndala Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医療助手	20	女	TAHO Ndala Hospital	薬学	2021年10月～2024年09月
医療助手	27	女	TAHO Ndala Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医療助手	30	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	看護助産学	2021年10月～2024年09月
会計	31	女	TAHO St.John Paul II Hospital	会計学	2021年11月～2024年11月
司祭	35	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2024年09月
医師補	27	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2021年10月～2026年09月
医師補	24	女	TAHO Mwanzugi Dispensary	医学	2022年10月～2027年10月
医療助手	31	男	TAHO Ndala Hospital	ソーシャルワーク	2022年10月～2025年10月
司祭	32	男	TAHO St.Ann's Mission Hospital	医学	2023年10月～2026年06月
医療助手	27	男	TAHO St.John Paul II Hospital	医学	2022年10月～2025年06月
准看護助産師	27	男	TAHO Ndala Hospital	看護助産学	2022年10月～2024年10月
臨床検査技師助手	39	女	TAHO St.John Paul II Hospital	臨床検査学	2022年09月～2023年09月

2023 年度支援予定奨学生一覧

准看護助産師	32	男	TAHO St.John Paul II Hospital	眼科学	2022 年 10 月～ 2025 年 10 月
医療事務スタッフ	34	女	TAHO St.Ann's Mission Hospital	薬学	2022 年 09 月～ 2025 年 08 月

*1 職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

*2 コロナ禍による研修開始の遅れにより、研修期間は見込み

[3 - 3] 協働プロジェクト

ケニアとタンザニアのプロジェクトを継続実施する。ケニアのシロアムプロジェクトは、第2期を開始する。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトは、1年延長し、2023年度末まで活動を続ける。カンボジアのSALTプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限が撤廃されたので、事後評価の実施を計画している。

新規協働プロジェクトの発掘形成調査は、引き続き進める。

(1)SALT (Sokkapeap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : バッタバン州
プロジェクト期間 : 2014年10月1日～2019年9月30日 (終了済み)
協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者 : バッタバン州内の16小学校および8中学校の高学年生
プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

小学校、中学校を対象として、健康教育、思春期教育を実施し、2019年9月をもってこのプロジェクトは終了した。JOCSの協力終了時点では、バッタンバン司教区では独自資源を用いて活動を継続する予定であった。また、学校における活動のみならず、村落での成人女性を対象とした健康教育も開始したいとの意向があった。その後のコロナ禍により、協働プロジェクト終了後の自立発展性の検証のための事後評価実施が3年持ち越しとなっていたが、2023年度には実施する予定である。

(2)第2期シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンプ郡カブク村
プロジェクト期間 : 2023年4月1日～2027年3月31日 (5年間)
協力団体 : シロアムの園
直接受益者 : シロアムの園に通う身体、知的、精神、行動などに障がいのある子どもたち、およびその家族、シロアムの園のスタッフ
間接受益者 : シロアムの園に通うことができていない障がい児やその家族、コミュニティの住民、その他の関係者 (地域は限定されないが、特にシロアムの園がカバーするキアンプ郡内の地域)

プロジェクト目標：シロアムの園において、療育サービス、社会的支援など包括的ケア事業が強化される

2016年度から2022年度まで実施した第1期シロアムプロジェクトでは、シロアムの園に療育事業の基礎が築かれた。2023年度から開始する第2期シロアムプロジェクトでは、その築かれた療育事業の基礎がさらに強化されることを目指す。そして究極的には、ケニアにおける共生社会の実現を目指す。

まず、第1期で育成した特定のスタッフに依存することなく、たとえスタッフの入れ替わりがあったとしても安定した療育提供を続けられるよう、新規スタッフの育成および能力開発を図る。2023年度は、理学療法士、特別支援教育の専門家に加え、第1期では関与することがなかった歯科分野についても専門家も派遣する。また理学療法士によるオンライン指導も継続する。

次に、より多くの子どもたちが必要なケアを受けられるよう、シロアムの園の事業拡大と、他団体や地域との連携を支援する。心と体だけでなく霊的成長をも促すシロアムの園に対して、地域からの期待は高く、2022年11月現在105名が登録を待機している。そこで、2022年に移転した新拠点の拡充のための設備投資を支援する。

さらに、シロアムの園に通う家族が必要な支援を自ら獲得できるように、家族同士の連携強化や情報のアクセス支援に加えて、地域内で提言する機会を設けていく。

(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2018年4月～2024年3月（6年間）
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者 : TAHO とその傘下の10の保健医療施設（病院や診療所など）
プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

2018年4月から開始したこのプロジェクトは、2023年3月に終了する予定であった。雨宮春子ワーカーによって導入された分娩監視装置および新生児蘇生法の研修の成果は現れ始めたが、まだ、技術は定着しておらず、各施設のスタッフを講師として施設ごとに研修を実施する仕組みは確立されていない。そこで、各施設で同僚を指導できる母子保健スタッフを育成し、プロジェクト終了後も継続的に研修を実施できる体制を構築するためにプロジェクトを1年延長し、短期専門家を派遣して以下の活動についてフォローアップを実施する。

- 1) 母子カードを活用した各健診の改善指導と周産期ケアにおける助産知識と技術の向上
- 2) 母子保健スタッフの分娩監視装置を使用した分娩管理の知識と技術の向上
- 3) 母子保健スタッフの新生児蘇生法の知識と技術の向上

フォローアップは、現地研修、セミナー、巡回指導（スーパービジョン）を用いて実施する。また、トレーナー育成研修として外部研修を活用する。

活動内容およびスケジュールは、活動の進捗にあわせてTAHO、TAHO傘下施設および短期専門家と協議の上、柔軟に調整する。

[3 - 4] 災害救援復興支援

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症のパンデミックに対処するための支援要請に対応する体制をとってきた。2023年度は必要に応じて対応する。新型コロナウイルス感染症以外の、自然災害等に対する支援要請が出てくる可能性にも備えておく。

4. 国内諸活動

新型コロナウイルス感染防止のため、各種活動のオンラインでの実施、在宅での実施など代替手段により活動を進めてきたが、2023年度はウィズコロナの体制で活動を進める。スタディツアーや教会訪問など、オンラインでは代替が難しかった活動を対面実施にするなどをしつつ、オンラインでも効果のある活動については、より一層オンライン実施の効果をあげられるよう研究と工夫をする。とくに会員増、支援者増につながる各種施策を企画実施する。

[4 - 1] 国際保健人材育成

保健医療分野の国際協力に興味があり、将来その分野で活躍を希望する人を発掘し、育成するために各種人材育成活動をおこなう。

ここ数年、新型コロナウイルス感染防止のため実施を見合わせてきたスタディツアーを再開する。国際保健医療勉強会はオンラインで実施する。

(1) 国際保健医療勉強会

国際保健医療協力活動に携わりたいことを希望する人を対象に、4回の勉強会をオンラインで開催する。また従来どおり、勉強会後に派遣希望者相談会をおこない、ワーカーの発掘・育成に努める。

(2) スタディツアー

将来的にJOCSのワーカーをはじめ、国際保健医療協力の分野で働くことを希望する人を対象に、タンザニア・タボラ州へのスタディツアーを実施する。タンザニアでは、協力

団体である TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office: タボラ大司教区保健事務所) や、雨宮春子ワーカーの活動拠点である聖ヨハネ・パウロ 2 世病院を中心に訪問する予定である。

[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知、及び国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会の提供として、種々の活動をおこなう。2023 年度は、事務局やイベントにおけるボランティア活動の再開をより一層進める。また、講師派遣についても、先方が受け入れ可能な場合は対面により実施する。オンラインや在宅で実施することが効果的な活動は、これからも継続する。

(1) 使用済み切手運動

子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、より多くの人に参加してもらうため、広報活動をおこない、使用済み切手収集、ボランティア体験の機会を広げていく。また、使用済み切手収集に加え、書き損じハガキ、外国コイン等の収集もあわせておこなっていく。

各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2023 2023 年 4 月 (都立産業貿易センター台東館)

(2) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会などに講師を派遣する。先方の要望をよく聞き取り、その内容を反映させたプログラムを準備する。毎年派遣の依頼を受けるところでは、前年度の講師派遣の記録を確認し、講話内容の重複を避ける。

保健医療系の学校等から、専門知識を要する講義などの依頼を受ける場合は、必要に応じて現・元ワーカーや理事に講師を依頼する。

新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインによる講話や、視聴覚データの送付の依頼にも適宜対応できるように準備をする。

(3) 事務局見学受入

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業ボランティアグループなどの希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情や JOCS の保健医療協力活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインによる講話や、視聴覚データの送付の依頼にも適宜対応できるよう、準備をする。

(4) 国際協力イベント参加

グローバルフェスタ JAPAN への出展を予定している。掲示物等を工夫して人の集まるブースを目指し、JOCS の認知度を高める機会としたい。

(5) ネットワーク活動

「国際協力 NGO センター (JANIC)」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)」のメンバーとして、情報交換や、一団体では実施困難な活動をおこなっていく。

JANIC のワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」「広報担当者グループ」への参加と、「NGO 非戦ネット」「『新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に!』連絡会」の呼びかけ人としての活動も継続していく。

(6) 地区 JOCs オンライン全体ミーティング

地区 JOCs など日本各地にある JOCs 支援グループが参加するオンラインミーティングを、1 回開催する。活動状況の共有と、活動を活発におこなうための情報交換などをおこなう場とする。

(7) 地区ボランティア活動協力

日本各地で JOCs を支援するために自主的に活動している団体と協力し、JOCs の活動を広報する。それにより支援者を増やす。

(8) 創立 60 周年事業

創立 60 周年事業の一環として作成を予定していた活動紹介 DVD は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による海外渡航制限のため延期してきたが、渡航制限が少なくなってきたので、2023 年度には実施する。現在の JOCs の海外での活動を広く知らしめることが可能な広報素材として活用できるよう企画する。

(9) オンラインスタディツアー

JOCs の海外の活動を動画撮影し、事務局スタッフが添乗員となり現地の様子を映像で紹介するバーチャルツアーを開催する。実際に現地を訪問したのに近い感覚を持てるようなものを目指す。

[4 - 3] マーケティング

新型コロナウイルス感染防止のために制限していた対面での活動を徐々に再開する。同時に、オンラインマーケティング手法を研究し、オンラインによる広報も進める。また、これまでと同様に、会報誌やホームページなどによる広報を通して、支援者に活動の進捗を伝えるようにする。そのため、一層のプレスリリースの活用、ホームページやパンフレット類の改善、物語データベースのデータ蓄積を進める。

(1) 会報誌『みんなで生きる』

支援者への説明責任を果たすとともに、活動への理解と共感を得るため、年 6 回（偶数月 10 日）発行する。

海外3事業（海外派遣、奨学金事業、協働プロジェクト）の活動報告では、現地の協力団体や、現地の方々の声を多く掲載するように努める。そのほか、国内活動の案内・報告や、国内の支援者の声も掲載する。

(2)年次報告書

6月にA4版の冊子形態で発行する。会員と、過去5年以内に寄付のあった支援者に会報誌・夏期募金趣意書を同封し郵送する。

支援者に1年間の活動について報告し、会費・寄付の使途を知ってもらうとともに、支援を継続してもらうことを目指す。

現地受益者、協力団体スタッフや、ワーカーと共に生きる人々の声や物語を通して、支援によってどのように変化が生み出されたかを伝えるようにする。また、JOCSの支援を新たに検討する人に親しみをもってもらいやすいよう、日本国内の支援者の声を掲載する。

(3)プレスリリース

株式会社PR TIMESの社会貢献活動である「非営利団体サポートプロジェクト」を活用し、JOCSの活動についてのプレスリリースを定期的におこなう。

(4)雑誌広告

キリスト教共感層に対してJOCSの認知度を上げ、活動を知ってもらい、新しい支援者を獲得するために、キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』等に1ページ広告を掲載する。JOCSの活動への共感を得られるような物語を中心とした「読み物」の広告とし、現地の受益者の声などを中心に掲載する。

また、JOCS支援者層と購読者層が重なると思われる婦人之友社発行の『婦人之友』誌に広告を掲載し、新たな支援者獲得をねらう。

(5)キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、店舗内電子ポスター掲示（東京店）と書籍購入者へのチラシ配布（東京、大阪、通販部）をおこなう。

また、日本各地のキリスト教書店に、チラシ配布や店頭での活動紹介イベントをおこなえるよう働きかける。

これらの活動により、キリスト教共感層にアプローチし、JOCSの認知度を上げ、新規支援者獲得を目指す。

(6)教会訪問

新型コロナウイルス感染症の影響による各教会礼拝の時間短縮や出席人数制限等の状況を見ていく。活動報告会開催が可能な教会があれば、開催を依頼する。JOCSの活動内容を報告し、さらなる支援をお願いする。

(7) 募金

夏期募金については、募金趣意書を、例年のように年次報告書を同封して支援者に送付する。

冬期募金については、募金趣意書を、支援者と、直近の1年以内に初めて使用済み切手を寄付した人に送付する。

募金趣意書は、寄付がどのように役立っているのか、また今後どのように使われるのかを支援者が具体的にイメージできるようなものとする。また、冬期募金は趣意書を単独で郵送するので、受け取った人が開けたくなるような封筒を作成し使用する。

(8) 遺贈マーケティング

高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』に遺贈に関する広告を掲載する。JOCSの活動の認知度を高めるとともに、遺贈パンフレットの請求数増加を目指す。支援者向けには、冬期募金趣意書、年次報告書で遺贈パンフレットを案内する。

(9) オンラインマーケティング

ホームページに、会費・寄付の使い方や受益者の声を掲載し、支援を促すことに特化したランディングページを新たに作成し、ホームページからの新規支援の申し込みの増加を目指す。

また、アクセスが多い使用済み切手運動のページから、ほかのページや支援申し込みのページへの流入を促すように工夫し、使用済み切手収集協力をきっかけとしてJOCSのことを知った潜在的な支援者に、海外事業のことを知ってもらえるようにする。

5. 運営体制

公益法人としての責任を果たしながら、JOCSの使命に邁進できるよう、総会、理事会、委員会、事務局の体制を整える。特に理事・監事、事務局スタッフの育成に注力する。

[5-1] 定時社員総会

第62回定時社員総会を、2023年6月10日（土）に一般社団法人日本聖書協会キリスト教視聴覚センターの礼拝堂にて開催する。また、ウェブ会議システムによる傍聴も可能とする。

[5-2] 理事会

年7回開催する予定である。今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、土居弘幸、中畠裕一、
名取智子、東岡牧、本田まり、森田隆、柳澤理子
監事：榛木恵子、渡部芳彦

[5 - 3] 委員会

(1) 財務委員会

委員長：大友宣

副委員長：羽山信輝

委員：中畠裕一、飯田多香子（事務局）、小池宏美（事務局）

予算が適切に執行されているかどうかを確認していく。事業計画に変更があった場合は、年度半ばに補正予算案を協議、調整して会長および常務理事に提出する。

年度末には、会計責任者が立案した予算案を協議、調整して、会長および常務理事に提出する。

委員会開催予定 第1回 2023年10月ころ

第2回 2024年2月ころ

(2) 奨学金委員会

委員長：柳澤理子

副委員長：小宅泰郎

委員：澤田和美、細谷たき子、宮崎雅、石金祐実（事務局）、滝澤さおり（事務局）、
竹内里佳（事務局）

奨学金事業の目的に則り、研修終了後にその地域に長くとどまり、住民の健康の維持、増進のために働きたいと願う人材であるか、研修内容が地域の保健医療事情の向上に資するものであるか、研修内容が地域の緊急性やニーズにあっていないかなどを考慮し、2023年度奨学生の選考をおこなう。

2024年度奨学生の募集に先立ち、奨学金事業の協力団体など奨学生選考の方針について協議をおこなう。

委員会開催予定 第1回 2023年8月ころ

第2回 2023年12月ころ

(3) 地区ボランティア活動委員会

委員長：東岡牧

副委員長：久保礼子

委員：川島泉、土居弘幸、宮川眞一、高橋淳子（事務局）

地区等における JOCS 支援者（グループ）による自主的活動をさらに促進する方策を検討する。

委員会開催予定 第1回 2023年5月ころ

第2回 2023年8月ころ

第3回 2023年10月ころ

第4回 2024年2月ころ

(4) 関西地区活動委員会

理事会で決定した関西地区活動委員会の設置につき必要な対応を進める。

[5-4] 事務局

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 飯田多香子、石金祐実、小池宏美、高橋淳子、滝澤さおり、
竹内里佳、森田真実子、村田素子（2023年5月～）

関西事務局 江川由美